

耐震診断の結果の見方

■耐震診断の結果と附表の関係

建築物の耐震診断は、現行耐震基準(震度6強から7に達する程度の地震に対する安全性を評価するものです。)

地震に対する安全性の評価については、一覧表にある評価の結果を附表に当てはめることでそれぞれの評価が確認できます。安全性の評価Ⅲは「大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い」、評価Ⅱは「大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある」、評価Ⅰは「大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い」とされますが、これらの評価区分により建築物の崩壊・大破の危険性が確定的になるものではなく、評価値が小さくなるに従って、被害を受ける可能性が高くなるものとされています。

要安全確認計画記載建築物の耐震診断の結果

【国道176号線】

	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	〇〇ビル	豊中市〇〇	事務所	2 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso=1.04 CTU・Sd=0.76	耐震改修	実施済	Iso=0.7
2	〇〇マンション	豊中市〇〇	共同住宅	3 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(1983年版)	Is/Iso=1.01	耐震改修	実施済	〇〇棟 Iso=0.7
				2 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso=1.06 CTU・Sd=0.53			〇〇棟 Iso=0.7

■耐震診断の結果の一覧表における補足事項
「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」は、各方向、各階のうち、最小値を記載しています。

■用語の解説

Is 値

構造体の耐震性能を表す指標(Isoは判定基準となる目標値)この数値が大きいほど、耐震性能が高い。

CTU・Sd(CT・Sd)値、q値

構造体の粘り強さ、建築物の平面・立面形状等から求める耐震性能に係る指標。この数値が大きいほど耐震性能が高い。

Z・G・U値、Z・Rt・G・U値

地域特性(地震活動等)、地盤特性(地形等)、建物の震動特性、建物用途等から目標値を補正するための指標。補正がない場合は1.0となる。

附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	I	II	III
1 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1983年版、2011年版)	Is<0.3 又は q<0.5	左右以外の場合	0.6≤Is かつ 1.0
2 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	Is/Iso<0.5 又は CTU・Sd<0.15・Z・G・U	左右以外の場合	1.0≤Is/Iso かつ 0.3・Z・G・U≤CTU・Sd
3 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1983年版)	Is/Iso<0.5	左右以外の場合	1.0≤Is/Iso

附表中の番号・同一名称の診断方法の行から安全性の評価を読み取ります。

評価の結果と附表の判定式を比較することで評価(I~III)が決まります。なお、評価結果のすべてが右側記載の判定式に該当する場合、評価Ⅲとなります。